

グローブの開発に参加する

私が欲しかったのは、ハンドルバーからの情報を可能なかぎりキャッチする能力

オートバイに楽しく乗るのに欠かせないのが上からいくと、ヘルメット、ウェア、グローブ、そしてブーツである。どれも自分に合ったものがないが、個人がこれらを好きに作れることはまずない。その幸運に私は恵まれた。ブランドはクシタニどこで売っているかは右ページをご覧ください

Photos : Motor Magazine and Teruyuki Hirano



■第1次試作品以来、この半年ほどほとんどすべての試乗をグローブテストの場ともしている。そうしてみると、1次試作と2次試作（これが最終仕様となった）の能力は大差だ。

昨年の夏、モーターマガジン社（この年の8月号からバイカーステーションの発売元になってもらっているので近い間柄である）の本多さんから電話があり、クシタニの信夫さんと3人で昼メシでも食べませんか、おいしいカレー屋があるから、という誘いがあった。聞けば、モーターマガジンのウェブショップで販売する新製品の相談をするから意見を言えとのことである。私はクシタニユーザーでもあるから、ふたつ返事で引き受



■最初のミーティングの日に撮ってもらった榎谷信夫さんとのツーショット。若い方は知らないだろうけれど、あの「クシタニのおばあちゃん」のお孫さん（もちろん左。右は私）。

けた。もちろんオートバイに乗っていった。

席上、信夫さんが、どうしてうちのこのグローブをいつも使っているのかと聞くので、自分の持っているグローブの中でオートバイからの情報を最も大量に得られるからだと答えた。

すると、私の使っているグローブの手のひらの部分は1mm厚の牛革だが、0.8mmのカンガルー革にすれば、もっとダイレクトに感じ取れるはずだし、それを作ることは可能だと言うではないか。

本多さんも、いいじゃないですか、やってみましょうよと大賛成。というわけで、とりあえず現行のレース用をベースにしてプロトタイプを作ることになった。本多さんの発案で、人指し指と薬指のガードを白にして目立たせること、バイカーステーションのロゴを入れるなども決まった。

しばらくするとデザインプランがいくつか送られてきたので、本多さんと相談してひとつを選び、待つこと数カ月。ようやく試作第1号が届いた。

ここで、私がなぜ手からの情報にこだわるのかを書くと、それが多いうほうがオートバイとの一体感が増し、走らせて楽しいのはもちろん、試乗記を書くのを仕事にしている以上、どの部分からであれオートバイが発する言葉を聞き逃したくないからだ。分厚いウィンターグローブを着用すると、彼らがしゃべる小さな声が聞こえにくくなるので、真冬の試乗はあまりうれしくないと言えよう。

そういう人間だから、冬でも薄手のグローブで乗れるように、2台のCBR-RR改にはグリップヒーターを装備している。これは大いに有効。冬でもスーパースポーツに乗る人にはおすすめしたい。

話を戻す。できてきた試作品を実際に使ってみると、想像していたのと少し違う。私はグローブ作りのプロではないが、すぐさまいくつかの改良点が明らかになった。まず、私がずっと愛用していたグローブより、主に手のひらを守るためのガードを増している。これが情報の伝達量を減らしていたのだ。ライダーの手を守るのはグローブの大事な仕事だから、ガードをおろそかにはできない。ここは難しいところだが、守りの能力を大きく損なうことなく情報伝達量を増やそうと決めた。

右ページの写真で説明するが、他にもいくつか直したいところがあったので、後日、信夫さんと担当者に会いに行き、直接お願いをしたところ、ほとんどの意見に賛同してくれたので私はうれしくなった。2次試作の完成が待ち遠しい。

そうこうするうち2013年になり、さらに1カ月と少したったころ、2作目ができてきた。私は一発で気に入った。全部注文どおりである。もちろん実際に何度も使ったが、改善の必要を感じなかったもので、これを最終仕様とすることにした。

本多さんも気に入ってくれて、自分も使いたくからと早期の量産化を信夫さんに頼んだらしいが、それでも発売は5月になった。最初のミーティングから10カ月ほどかかったことになるが、それまで使っていたお気に入りこそそろそろだめになりそうだったのを心配していた自分が、好き勝手に言って次期モデルの開発に加わったことに大満足の私である。もちろん、私と同じ考えを持つライダーの方々にも、きっと気に入ってもらえるのではないかと。価格は2万3100円です。（佐藤康郎）



■3種のグローブは、左から、私がもう何年も使い込んだクシタニのレース用、第1次試作品、そして第2次試作品だ。古い私のを今回実測してもらったら、牛革の1mm厚だった手のひらが0.6mmにまで薄くなってた。目標はこいつにどこまで肉迫できるかである。しかし、第1次試作品は、手のひらのガード面積が大きく、これが情報の伝達を妨げていた。使って驚いたのは、手のひらの部分は一目瞭然だが、指の根元部分の当て革がほんの少し上方に伸びているだけで情報量ががっくり減ることだった。せっかく牛よりソフトなカンガルー革を使ったのに。そこで第2次試作では、ガードを古い私のタイプに戻してもらった。手を守る能力はこれでも充分だという判断である。下段左の写真は斜めから見た2次試作品。

■手首を締めるベルトそのものには変更を加えていないが、それを守るためのガードは取ってもらった。これがあると手首がゴツゴツするし、機能としては過剰だと思ったからだ。ついでに、下段中央の写真に写っているように、面ファスナーの上下幅を約半分にしてもらった。ファスナーを外した部分がしなやかになるうえ、かえって脱着しやすくなった。

■手の甲側は、ほんのわずかの変更ですんだ。1次と2次で異なるのは、中央下部にあるカーボン風カバーの有無だけだ。手を守る能力の差はほとんどないだろう。こうした小パーツを外すことにこだわったのは、少しでも軽くしたかったからである。最新のハードなロードレース用は私には重すぎるように感じられるのだ。ガード面積の減少と加えて、214gから202gへと、12gの軽量化ができた。

■本多さんが、走り写真でワンポイントになるよう、人指し指と薬指の先端外側のガードを白くしたら…と提案してくれたのは大成功。左の走り写真（もちろん乗っているのは私だ）を見てもわかるように、ここの白はすごく効果的である。下段右の写真にあるように、ここにもバイカーズステーションのロゴを入れてくれた。ここはプリントだが、面ファスナーの反対側にあるロゴは贅沢にも刺繍だ。

■なお、MM Style店のウェブサイトにも、このページに近いが、ちょっと違う私の説明があるので、ご覧いただきたい。

■商品番号：41677
バイカーズステーション×クシタニ
スーパーインフォメーショングローブ



■どこで買えるかを紹介したい。①MM Style店 検索：モーターマガジン MM <http://mm-style.jp/> ②Yahoo店 検索：モーターマガジン Yahoo <http://store.shopping.yahoo.co.jp/motomagazine/> ③楽天市場店 検索：モーターマガ

ジン 楽天 <http://www.rakuten.co.jp/motomagazine/> ■パソコンなどいじらんという方は、電話（フリーダイヤル）で注文していただきたい。☎0120-979-159がその番号だ。 ■サイズは、M/L/LL/XLの4種。クシタニの一般製品と

同じ大きさだから、近くのクシタニ店でサイズを確認していただくと思う。蛇足ながら、丁寧に使い込んで十分に慣らしてをしていただきたい。そうでないと「スーパーインフォメーション」（商品名）を100%味わうことができないからである。